

トピックス **プラス**

1/5～1/6

DCに向けて特産品や観光名所をPR

東京都豊島区にある宮城県のアンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」で、1月5、6の両日、登米市の特産品の試食販売が行われました。市産のもち米、枝豆を使った「ずんだもち」を1日250食の限定で来場者に無料提供。地酒「澤乃泉」の鏡開き・試飲もありました。また、会場には観光コーナーも設置され、大変にぎわった2日間となりました。



▲正月らしくきねと臼を使ってもちつきをしました

1/30

市の取り組みは早めに分かりやすく

市民の声を市政に取り入れ、市民との協働によるまちづくりを目指し設置された市政モニター。その第2回会議が1月30日、市役所迫庁舎で開催され、委員11人が出席しました。今回は広報紙とホームページ、市民協働の2つをテーマに意見交換。市の取り組みを早めに分かりやすく広報紙で伝えてほしいなど、活発に意見が交わされました。



▲活発に意見が交わされた市政モニター会議

2/5

農産物の安全確保に向けたGAP導入

登米地域園芸振興研修会が2月5日、ホテルニューグランヴィアで行われ、市内の園芸農家や県、市、JAの関係者ら約120人が参加しました。宮城大学の池戸重信教授が「消費者が求める日本農産物への信頼」と題して基調講演。宮城県におけるGAP（適正農業規範消費者）の取り組みや、消費者の国産品選択基準などを話しました。



▲園芸農家にGAP普及の重要性を話す池戸教授

2/8

市内の自然を守る環境教育リーダーを

平成19年度第2回市環境教育指導者研修会が2月8日、迫公民館で開催され、一般住民や教職員、行政職員ら約120人が参加しました。講師は東北放送の気象予報士、斎藤恭紀さんと宮城教育大学の溝田浩二助教。斎藤さんは、地球温暖化についてユーモアを交えながら講話し、溝田さんは自然学習体験を通じた子どもとの遊び方などを話しました。



▲環境教育リーダーの育成を目指して行われた研修会

妊婦の大変さを自ら体験

南方で子育て理解講座

未来の親候補である中学生に正しい知識を持ってもらおうと、「明日の親となる中学生の子育て理解講座（南方中・教育委員会南方事務所主催）」が2月20日、南方武道伝承館で行われました。講座には南方中3年生93人が参加。保健師や子育て施設のスタッフらによる、「性と生について」と題した講話や、妊婦体験スーツを着用しての妊婦疑似体験が行われました。また、生徒らは子育て中の母親5人の協力により、乳児の抱きかかえも体験。泣き止まない乳児に悪戦苦闘しながら、恐る恐る抱く姿が見られました。



▲妊婦体験スーツを着用して乳児人形をだっこする生徒



▲一つでも多くの福にあやかりようと豆袋を拾う参加者

豆を拾い一年の福を呼び込む

横山不動尊で節分豆まき大会

福の神を呼ぶ節分豆まき大会（横山6区・7区集会所運営委員会主催）が2月3日、横山不動尊で開催され、地域住民約200人が参加しました。運営委員ら関係者が本堂で祈禱を行った後、「かみしも姿」で境内に並び、太鼓の音に合わせて「福は内、鬼は外」の元気な掛け声で落花生の入った袋を勢いよくまきました。訪れた人たちは、一つでも多くの福にあやかりようと、歓声を上げながら豆袋を拾っていました。また、豆袋の中には当たりの福豆も混ぜてまかれ、拾った人にはおもちゃなどが贈られました。

寒さに負けずハッスルプレー

登米で9人制バレーボール大会

地域のバレーボール技術の向上と普及、愛好者の親睦を目的に、「登米町9人制総合バレーボール選手権大会（同町バレーボール協会主催）」が2月24日、登米総合体育館で開催されました。今回で32回目となる大会には、町内の6チーム、70人を超える選手や関係者が参加。各チームの応援団も大勢訪れました。全員がバレーボール経験者のチームもあれば、ほとんどが初心者チームもあり、白熱したゲームを展開。どのチームも寒さを吹き飛ばすように、互いに声を掛け合いながら心地よい汗を流しました。



▲6チームが寒さに負けず心地よい汗を流したバレーボール大会